

ボトルサーバTM

省スペース&省仕入れを実現!!

ボトルサーバ導入店レポート①



商品パンフレットではよくわからない? 実際導入したらどうなのか? そんな疑問は、導入店に聞くのがイチバン! ということで、繁盛店に潜入レポート! 寺岡精工のボトルサーバの魅力とはいかに?

仕入れ
コストを削減

ボトルサーバで管理する3種類のお酒については、ボトルではなく必要量だけ（お徳用ボトル等で仕入れ可能）を仕入れればいいので、仕入れコストが大幅に削減できます。

ボトル整理の
負担も軽減

3種類のボトルについては、ボトル整理も不要。従来のようにキープ期限を設定する必要もありません。



便利な
台帳機能

お客様情報は、顧客コード・顧客氏名・都道府県・会社名・誕生日・担当者・電話番号・メモの8項目いずれからも検索が可能。顧客管理が正確、容易になります。メモ欄を活用すれば、接客サービスのさらなる向上につなげることもできます。

スピーディな
対応でお店の
好感度がアップ

ボトル棚でボトルをさがす手間もなく、タッチパネルで簡単にお客様のボトル残量を確認し、お客様の席にすぐにボトルをお持ちできます。久しぶりにご来店されたお客様にも、新鮮なお酒を提供できます。

店舗スペースの
圧迫の解消

ボトル20本分のスペースで3種類、6万本分のキープボトルが管理できます。お客様それぞれのキープボトルの残量を記録するので、ボトルは席数分の空きボトルを用意するだけで済みます。

ボトルサーバ導入店レポート①

田町 和風居酒屋 駒八 本店

東京都港区芝5-16-1橋本ビル1F ☎03-3453-2530

ボトルキープのミスがなくなり、 いつでも新しいお酒が スピーディに出せるよう になりました。



老舗の繁盛居酒屋「駒八」（東京・田町）では、この夏、現場の業務効率改善とお客様へのサービス向上のために新兵器を導入した。ボトル保管・顧客管理システムの「ボトルサーバBS-310」（以下、ボトルサーバ）である。

「駒八」本店では従来から、焼酎を中心に5～6種類の酒のボトルキープサービスを実施してきた。ただ、リピーターの多い人気店ゆえに、キープボトルの数は常時300本にもおよび、ボトル棚のスペースが足りなくなってしまうために、ボトルのキープ期間は2カ月以内に制限せざるを得なかった。また、キープボトルは、お客様単位、グループ単位で番号をふって紙の台帳に記録していたが、その台帳やボトル棚を管理する現場店長の負担も大きかった。ボトルサーバの導入によって、こうした現場の業務効率が、一気に改善できたという。

「以前は、ボトルの本数が増えるほど管理が煩雑になり、当店のチェックミスもあって、お客様の名前とボトルが照合できないこともありました。お客様にボトルをお出しする際にも、ボトル棚からボトルをさがしだすのが一苦労で、けっこうな時間がかかっていました。ボトルサーバを導入して

からは、管理が非常に楽になったので、チェックミスが明らかに減っています。ボトル棚のスペースの問題が解消したため、キープ期間を無制限にしましたし、リクエストがあれば、非常に素速くキープボトルをお出しできるので、多くのお客様に喜んでいただいています」

こう笑顔で説明してくれるのは「駒八」本店店長の大金さんだ。

ボトルサーバ導入の陣頭指揮をとってきた「駒八」社長で、通称“オヤジさん”の八百坂仁さんも「現場の店長がそれほどマメなタイプでなかったとしても（笑）、ボトルキープのミスがなくなるのが一番大きいね。当然、お客様の側にも安心感があるし、いつも新しいお酒が、スピーディに出せるのも大きな売りだな」と、ざっくばらんに話す。

現場の工夫しだいで さらなるサービス向上も

店内でのボトルサーバの運用方法は、下のチャート図に示した通りだ。3種類のタンクには、各7リットルの蒸留酒（焼酎・バーボン・ウイスキーなど）が貯蔵できる。お客様からキープボトルのリクエストがあれば、ボトルサーバの表示部のタッチパネルで、簡単に顧客検索ができる。検索後、空ボトルを計量装置にセットし、「注入開始」を押せば、お客様別の残量分のお酒が自動的に計量、注入される。注入後のボトルをお客様にお持ちする際には、タッチパネルのメモ欄で「ロックが好み」などの接客情報を確認し、サービスに役立てることも可能だ。

「駒八」本店では、ボトルをお客様の席にお持ちする際に、チェーンと名札の付いたボトルタグを、ボトルの首にかける。名札は、タッチパネルを見ながら、ボトルサーバ横で書きするが、その際には、お客様の名前以外に一言、メッセージを書き添えることを推奨している。

「便利な機器を入れて、仕事が楽になったというだけでは意味がない。それをサービスレベルの向上につなげないとね。名札の名前の横に、暑い日だったら、『お暑い中、ご来店ありがとうございます』と書いてあったら、やっぱり嬉しいじゃない。理想を言えば、メモ欄にお客様の好みや誕生日などが詳しく書いてあって、それに合わせたサービスができるといいね」と八百坂さん。この意見に、大金店長は「メッセージの書き込みは、少しずつですが、試しています。毎日のようにご来店されるお客様などは、天気が変わるごとに新しいカードを書くので、なかなか手間がかかります」と応じる。この報告を聞いた八百坂さんは、「アルバイトのスタッフに、気の利いたことを勝手に書けと言っても、なかなか難しいかも知れないね。われわれのほうで、季節ごとに、何種類かコピーを考えておいたほうがいだろうな」と新しいアイデアを出す。こんな日頃からのたゆみないサービス向上への意欲こそ、「駒八」が繁盛店であり続ける秘訣なのだろう。

「将来的には、田町にある系列の店をネットワークして、どこかの店でボトルを入れても、その日に行った店で、キープしてあるボトルを出せるようにしたい。便利になるよね」（八百坂さん）。ボトルサーバは、今後も「駒八」のサービス向上のサポート役として、貴重な存在感を発揮していくに違いない。

編集協力 = Smiler



ボトルサーバのお問い合わせは (株)寺岡精工 ホスピタリティソリューション事業部へ

☎03-3752-5631

<http://hospitality.teraoka.biz/>